

令和7年度学校評価結果について

広野小学校長 森根 聖晃

I 学校評価の実施にあたって

広野小学校では、令和7年度の学校評価を次のような方法で実施した。

1. 評価基準は「A：はい B：どちらかといえば『はい』 C：どちらかといえば『いいえ』 D：いいえ」に統一した。その上で、「A：はい」「B：どちらかといえば『はい』」を高い評価として捉え、それ以外を低い評価（反省すべき項目）として、その要因を分析した。
2. アンケートを通じた児童、保護者、教職員の評価については、令和6年度との比較の上で今年度の教育について分析した。分析では、まず、継続して評価がよかったものについてその内容と方策を検討し、より一層高められるように取組に生かさればと考える。また、重点項目について、前年度より優れていたもの、逆に劣っていたもの、前年度同様に評価の低かったもの、今年度の教職員が低い自己評価をおこなったもの等について取り上げ、分析した。
3. 上記の方法でまとめたものを、学校を外部から観察していただいている5名の学校運営協議会委員の方に提示し、ご意見を伺う。
4. まとまった学校評価については、今年度中に広野小学校ホームページで公表する。

上記の方法で分析したことを、次に述べる。

II アンケート分析と考察

1. 継続してよかった評価

(1) 授業や活動について

(アンケート該当項目 児童4、5、6、7、14 保護者2、3、4 教職員2、3、7)

授業中の発言や勉強時間に新しいことを知ることが楽しいと感じている児童が多い。児童の実態を把握し、児童の意見を大切にしたい授業展開を心がけていることが大きいと思われる。また、体験的な学習を取り入れるとともに、ICTを活用して分かりやすい授業をこころがけていることが、アンケートの結果につながっていると考えられる。

掃除については、ほとんどの児童が、はやく取りかかり、最後まで一生懸命できている。異学年活動（チーム活動）を実施し、児童が自ら考え、実践できる活動を継続しているからだと思う。今後も児童が楽しく活動し、分かる授業や児童が主体的・協働的に活動できる取組を続けていきたい。

一方で、「勉強中に自分の考えを発表している」、「休み時間は外で遊んでいる」については「B どちらかといえば『はい』」の割合が下がっている。外遊びよりも室内遊びを好む児童の割合が多くなったことも考えられ、二極化の傾向が感じられる。体力向上の視点からも、目標設定や外遊びの奨励を進めていきたい。

(2) 学校生活・友達関係について

(アンケート項目 児童8～13 保護者5、13、14 教職員5、12)

「学校へ行くのが楽しいと思う児童の割合」「明るく楽しい学校生活が送れていると感じる保護者の割合」が高い。また、どの項目も継続してよい傾向にある、学級の友達だけでなく異学年活動（チーム活動）が充実しており、一人一人が認められる環境があり、役割がある活動や行事を実践しているからだと考えられる。「友達は自分の話を聞いてくれる」の肯定的評価は非常に高い。また、人権学習では、生命(いのち)の安全教育において、性や人との身体と心の距離やについても学習しており、今後も継続していく。

(3) 環境や施設・設備の安全点検、安全確保について

(アンケート項目 児童14、保護者6、15、16 教職員14、15)

児童は時間いっぱい一生懸命掃除を行う習慣が身につけており、縦割り班清掃（チーム清掃）や朝のボランティアタイムで掃除を行い、校舎内外の美化に努めることができた。保護者の肯定的な評価も90%を超えている。登下校の安全確保や災害を想定した避難訓練も年間を通して実施している。さらに様々な状況に対処する訓練や危機管理マニュアルの改善点を生かした安全確保・避難訓練にも積極的に取り組みたい。保護者の協力を得ながら、安全確保・環境美化に努めていく。

2. 重点項目に関わる評価

(1) 基本的な生活習慣について

(アンケート項目 児童1、2)

食の大切さについて食育指導等で児童に伝え、保護者への啓発も行われており、ほとんどの児童が朝ご飯を食べている。食育パワーアップ作戦等で関係諸機関と連携をして、朝ご飯の大切さを指導する取組もその要因にあげられる。全員が朝ご飯を食べて登校できるように、引き続き働きかけていく。早寝早起きについては、肯定的な児童の割合が高く、「どちらかといえば『いいえ』」の傾向も少なくなっている。引き続き、十分な睡眠を取って日々の活動を充実させられるように指導を続けたい。また、メディアチャレンジの取組等も継続し、家庭と連携して生活のリズムを整え、活発な学校生活を進めたい。

(2) あいさつについて

(アンケート項目 児童3、保護者1、教職員4)

児童・保護者・教員とも肯定的評価が80%を超えており、職員室の出入り・給食配膳時のあいさつなど、よい伝統が引き継がれている。家庭においてもあいさつの大切さを話していただき、実践していただいているからだと感じる。今後とも、継続的にあいさつの意義について説明し、お互いに気持ちの良いあいさつがかわせるようにしていきたい。

(3) 家庭学習について

(アンケート項目 児童15、保護者8)

昨年度と同様で、肯定的評価は70%ほどである。しかし、毎日宿題に取り組み、提出できてはいるが、家庭での音読や日記、休日の学習が十分ではないと感じる状況もあり、学力の定着に課題がある。家庭学習の課題の出し方や内容を検討するとともに、保護者にも家庭で児童の自主学習や読書、日記を点検してもらうなど協力体制を築いていく必要がある。

(4) 学校や家庭での読書活動について

(アンケート項目 児童16、保護者7、教職員7)

読書への関心がやや低下の傾向である。読書の意義や楽しさを伝えながら、引き続き朝の活動等で読書の時間を確保するとともに、図書室を有効に活用し、今後も親子読書や週末読書の継続に取り組んでいく。

(5) 情報発信・情報公開について

(アンケート項目 保護者9、10、教職員16)

ホームページや学年だよりに、児童の活動の様子や保護者へのお知らせ等を掲載し、情報発信を行っている。特に、ホームページは、様々な教職員が学習や行事の様子を日々更新している。しかし、ホームページ閲覧に関しては、82%の保護者が「1ヶ月に数回」、「ほとんど見ない」と回答しており、情報発信の場としてうまく機能していない現状がある。保護者に広報を続けていくとともに、より伝わり易い方法を構築していく必要がある。

(6) 開かれた学校づくりについて

(アンケート項目 保護者12、13、17 教職員20、21、22)

コロナ禍の後、行事や活動が見直しされ再開されている。感染症に対する意識の高まりによって、再開に消極的な考えと積極的な考えがあるが、児童の活動の様子を見ていただいたり、保護者とともに活動できる内容を考えたりしながら、開かれた学校づくりに努めていきたい。今後は、児童の学びや学習効果を検討し、働き方改革への理解も進めながら、PTA役員会や学年部会での話し合いを充実させ、保護者の方々と連携を図っていきたい。

Ⅲ 学校運営協議会委員からの意見

- 「運動会」「学習発表会」が延期になったが、特に混乱はなかったか。
- 地域との関わりは大切であるが、教職員の負担になる。行事の見直し等取捨選択の場が必要である。
- ホームページはあまり見ないだろう。「公民館だより」を活用できないか。
- 宿題はほとんどの子が学童でできているが、家庭での学習習慣がついているかどうかは、各家庭による。家庭学習や週末読書、メディア使用時間等の課題について、学校と家庭

が連携して継続して取り組む必要がある。

IV 改善に向けての具体的な取り組み

今回の学校評価を踏まえ、次年度は以下の点を重点課題として取り組む。

1. 学力向上に向けて

(1) 基礎学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実践

学習内容の定着を図るため、ドリルやプリントを活用し、反復学習を行う。また、児童の実態に応じた個別課題を設定し、個別に対応する学習を進める。

児童が自分の考えや思考の過程を文章にまとめ、発言できる力を育む。そのために学級内にとどまらず、低・中・高学年のグループや縦割り班で話し合う機会を増やし、対話的な学習を促進する。

校内研修を通じて学習状況や課題を分析し、教職員間で共通理解を深める。さらに、ICTを積極的に活用し課題に応じた少人数授業の研究や研修を進める。

(2) 家庭学習の取り組み

家庭学習の手引きを再確認し、学年に応じた課題を提供する。保護者への説明を継続し、宿題以外の家庭学習の習慣を定着させる。

週末課題を設定し、自主学習の充実を図るため、テーマや課題を提示する。優れた自主学習ノートを掲示し、児童の学習意欲を高める。

保護者や学童と連携し、平日は音読や日記を必ず家庭で行うよう指導する。週末には家庭学習の課題を設定し、保護者がチェックできる機会を設ける。

(3) 読書習慣の定着

読書活動の時間を見直し、本の選択や内容を工夫する。児童の読書意欲を高めるための取り組みを教職員で検討する。

親子読書や学校での読み聞かせを実施し、本に親しむ機会を増やす。

2. 基本的な生活習慣の確立

(1) 規則正しい生活の習慣化

生活リズムチェックを活用し、児童が自分の生活リズムを見直せるよう指導する。また、保護者への啓発を継続し、協力を求める。

「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を定着させるため、保健学習や学級活動を通じて指導を行う。保健だよりや学年だよりを活用し、保護者と連携を強化する。

(2) メディア使用

長時間使用や深夜使用が見られる児童には個別指導を行う。また、学級懇談や学年・保健だよりを通じて、保護者への啓発を進める。

メディアの長時間使用が健康に及ぼす影響について、保健学習を通じて児童に考えさせる。さらに、講演会や研修を実施し、保護者にも情報を提供する。

(3) あいさつの習慣化

あいさつの大切さについて、朝会や学級活動を通じて継続的に指導し、「いつでも・どこでも・だれにでも」あいさつができるようにする。教職員も率先してあいさつする。

地域の協力を得ながら、学校・保護者・地域が一体となり、より良いあいさつの習慣を定着させる。

3. 開かれた学校づくりと情報発信

(1) ホームページ・学校だより・学年だより

学習や行事の様子を掲載し、継続的に更新を継続する。まちコミメール等を活用し、ホームページの閲覧を促すとともに発信内容を工夫する。

(2) PTA活動・保護者との連携

参観日や行事の機会を捉え、保護者同士がつながれる機会を設ける。保護者の意見や要望に対しては、話し合いを通じて連携を深める。児童・保護者・教職員がともに意義のあるPTA活動を行う。

4. 働き方改革

教職員が自身の業務内容や勤務時間を見直し、効率化を図る。年間行事を振り返り、必要に応じて精選・見直しを行う。

教職員の意見を反映させるため、研修にグループ討議を取り入れ、率直な意見を交換できる場を設ける。